

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>
 第675号 2026年5月17日

復活徹夜祭・復活の主日ミサ・祝賀会



光の祭儀（「復活のローソク」の祝別）

4月4日（土）午後7時から復活徹夜祭ミサがラファエル梅村昌弘司教主司式により執り行われ、洗礼・堅信・聖体の「入信の秘跡」の祭儀がありました。典礼色は神の栄光を表す白（梅村司教の祭服と聖櫃を覆う布は金、司祭団のストラは白）。典礼は、第1部「光の祭儀」、第2部「ことばの典礼」、第3部「洗礼と堅信」、第4部「感謝の典礼」から構成。

聖堂入口で行われた「光の祭儀」では、梅村司教により「新しい火」と、復活した主キリストがともにいてくださることを表すしるしとしての「復活のローソク」が祝別され、火がともされました。続いて、行列の先頭にグェップ助祭が「復活のローソク」を高く掲げて照明を消した聖堂に入室し、祭壇に向かう「復活のローソクの行列」があり、祭壇に着くと復活賛歌が聖歌隊により声高らかに歌われました。

「ことばの典礼」では旧約聖書の朗読があり、「入

信の秘跡」では26人が洗礼のお恵みにあずかりました。また、改宗者1人がありました。

鈴木真主任司祭は、説教で「入信は、決してゴールではありません。これからずっとキリスト共同体の仲間として共に歩いていきます。そして、それは死をもって終わるものではありません。『わたしは世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる（マタイ福音書28章20節）』と言われたキリストは、常にわたしたちと共にいてくださることを改めて分かち合い、主の復活の喜びをともにしたいと思いません」と話されました。

4月5日（日）＜復活の主日＞、梅村司教主司式による11時30分ミサがささげられ、司教は説教で「イエスさまが、命がけで示してくださった神の究極の愛は『ゆるし』です。わたしたち自身も洗礼の秘跡を通して『ゆるし』の恵みにあずかりました。何の代償を払うことなく、無償で、無条件で、すべての罪をゆるしていただきました。その神の愛にこたえて、これからも信仰の道を歩み続ける覚悟が、いま問われ、求められています。特に、ゆるす愛をもって信仰の道を歩むことこそが大切です」と話されました。

ミサ終了後に祝賀会が教会ホールで開催され、主の復活を盛大に祝い、新受洗者の紹介などがあり、司教は信徒の方々に囲まれ、にこやかに接しておられました。

最後になりましたが、おいしい料理を準備していただいたロザリオ会の皆さまに感謝いたします。